

# 国語問題

【平成28年12月4日実施】

一 次の文章を読んで後の問に答えよ。

先日、講演に行つた際の話です。控室にいらつしやつた中年の男性が、「私は、1 君子豹変といふのは悪口だと思つていました」と言つていた。もちろん、実際にはそうではありません。

「君子豹変」とは「君子は過ちだと知れば、すぐに改め善に移る」という意味です。では何故彼はそう a カン 違ひしたか。「人間は変わらない」というのが、その人にとっての前提だからです。

いきなり豹変するなんてとんでもない、と考えたわけです。2 現代人としては当然の捉え方かもしれませぬ。

「男子三日会わざれば刮目して待つべし」という言葉が、『三国志』のなかにあります。三日も会わなければ、人間どのくらい変わつていくかわからない。だから、三日会わなかつたらしつかり目を見開いて見てみるということでしょう。

しかし、人間は変わらない、と誰もが思つている現代では通用しないでしょう。刮目という言葉はもう一種の b シ語になつていく。

いつの間にか、変わるものと変わらないものとの逆転が起つていて、それに気づいている人が非常に少ない、という状況になつていく。いったん買った週刊誌はいつまで経つても同じ。中身は一週間経つても変わりません。情報が日替わりだ、と思うのは間違いで、週刊誌でいえば、単に毎週、最新号が出ているだけです。

西洋では十九世紀に c スデに都市化、社会の情報化が成立し、3 このおかしさに気が付いた人がすでにいた。

【A】の小説『変身』のテーマがこれです。主人公、グレゴール・ザムザは朝、目覚めると虫になつていく。それでも意識は「俺はザムザだ」と言い続け

ていく。変わらぬ人間と変わつていく情報、という実態とは正反対のあり方で意識されるようになった現代社会の d ジョウ理。それがその小説のテーマなのです。

人間は変わる、ということについていえば、学生たちを教えているとしみじみ思うのが、彼らは勉強しないと いう以上に、4 勉強するという行為の意味を 殆ど考えたことがないのではないか、ということ。それをし みじみ感じる。

勉強するということは、少なくとも知ることとパラレルになつていく。知ることイコール勉強することではないが、非常に密接に関係があるのは当然です。

ところが、あるときから、知ることの意味や捉え方が何か違つてきたんじゃないかな、と思つてならなくなつてきた。

私は東大を辞める少し前まで、東大出版会の理事長をやつていた。その時に一番売れた本が『知の技法』というタイトルでした。知を得るのにあたかも一定のマニュアルがあるかのようなものが、東大の教養の教科書で出ている。

5 気に入らない。それで、何でこんな本が売れやがるんだ、と思つて、出版会の中で議論したことがある。結局 答えが得られない。私以外は、そんなことを気にしてはいなかったのでしょう。

その後、自分で一年考へて出てきた結論は、「知るといふことは根本的にガンの告知だ」ということでした。学生には、「君たちだつてガンになることがある。ガンになつて、治療法がなくて、あと半年の命だよと言われることがある。そうしたら、あそこで咲いている桜が違つて見えるだろう」と話してみます。

この話は非常にわかり易いようで、学生にも通じる。そのぐらいのイメージーションは彼らだつて持つていく。その桜が違つて見えた段階で、去年までどう思うかあの桜を見ていたか考へてみる。多分、思い出せない。では、桜が変わつたのか。そうではない。それは自分が変わったということに過ぎない。知るといふことはそういうことなのです。

知るといふことは、自分がガラツと変わることです。したがつて、世界がまつたく変わつてしまふ。見え方が変わつてしまふ。それが昨日までと殆ど同じ世界でも。

昔の人は、学ぶ、学問するとは、実はそういうことだと思つていた。だから、君子は豹変した。男子三日会わざれば……だつた。養老猛司『バカの壁』による

問一 傍線部 a ～ d のカタカナの漢字を含む熟語として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 a ① b ② c ③ d ④

a【①感嘆 ②寒心 ③勘案 ④大食漢】  
c【①既製品 ②概念 ③蓋然性 ④自己】

b【①市中 ②死亡 ③私淑 ④詩歌】  
d【①愛情 ②浄化 ③状況 ④条約】

問二 傍線部1に「君子豹変というのは悪口だ」とあるが、一般的にはどのような人を指す悪口と捉えられているか。次の①～④の中から答えよ。

- ①節操がない人 ②教養がない人 ③気品がない人 ④暖かみのない人

解答番号 5

問三 傍線部2の「現代人としては当然の捉え方」とあるが、その理由として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 6

- ①現代人は、人間は個々に独立した精神を保つべきものだと思っているから  
②現代人は、人間のアイデンティティは変えるべきではないと思っているから  
③現代人は、自分という存在は誰とも交替しようもなく不変だと思っているから  
④現代人は、人間は変わらず環境や情報が変わると思いこんでいるから

問四 傍線部3の「このおかしさ」の説明として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 7

- ①記事になったニュースはいつまでも変わらず、滑稽であること  
②朝目が覚めると虫になっていたということが不可解であること  
③人間は変わらず環境が変わるといふ捉え方が間違っていること  
④三日も会わないと人間が変わるといふことには疑問があること

問五 傍線部4に「勉強する」という行為の意味」とあるが、筆者のとらえる「意味」として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 8

- ①命のはかなさを自覚するという意味  
②社会生活の知識を手に入れるという意味  
③普遍的な真理を追究するという意味  
④世界の見方がすっかり変わるといふ意味

問六 傍線部5「気に入らない」の理由として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 9

- ①知を得るのにあたかも一定のマニユアルがあるかのようなものが出版されたため、学生が短絡的に学問の近道を行こうとして勉強しなくなるから  
②自己変革をすることが学問の目的であるので個人によって学び方が違うはずであるのに、学び方の普遍的な方式があるかのような書物が出版されたから  
③教養と呼ぶに値しないような程度の低いものが、東大出版会の理事長で或る自分に無断で、東大の教養過程の教科書として出版されたから  
④ある時期から知るといふことの意味や捉え方ががらっと違ってきたのに、誰もそのことを意識せず、昔のままの価値のない本が売れるから

問七 【A】に入る作家として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 10

- ①リルケ ②トルストイ ③カフカ ④カミュ

二 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

鉈なたを持った一番最初は、風呂を焚きたきつけをこしらえる為からであった。こつんとやると刃物は木に食い込む。食い込んだまま二度も三度もこつこつとやって割る。「薪を割ることも知らないしよの無い子だ、意地の無いさまをするな」と云って教えてくれた。おまえはもつと力が出せる筈だ、働くときに力の出し惜しみをするのはしみつたれで、醜みにくで、満身の力を籠めてする活動には美があると云った。「薪割りをしている女は美でなくてはいけない、目に爽やかでなくてはいけない」というんだから、その頃は随分うるさい親爺だとおもっていた。枕にそえて割る木を立て、直角に対あつて割り膝にしゃがむ。規きいをさだめてふりあげて切るのは違う。はじめからふりあげていて規きつて、えいと切りおろすのだ。一気に二ツにしないでいい。割りしぶると、構かまえが足りないと云う。A 玄人くわにん以外の鉈は大概刃の無い a ドンどん器がらなのだから一気に使うものだ。二度こつんとやる気じゃだめだ、からだごとかかれ、横隔膜を上げてやれ。手のさきは柔かく楽にしとけ。腰はくだけるな。木の目、節のありどころをよく見る。「全くどうしていいのかわからない。父は二度三度して見せた。ぞつとする気味の悪さに嫌悪が走った。物置の前の日かげは寒かった。峰の厚い鉈をふりかぶる白い手、肥ったおなかに籬かきをはめたような帯、無地紬むぢちゆうの袷あじの縹せう色の B 裾すそ、何よりもその目、長年の酒にたるんだ上瞼かみが目じりでぎゅつと吊りあがつて、色のほとばしり出ているような瞳、ウツとふりおろすとダツと二ツに割れる。私には大体刃物をふりあげるそのことがすでに、こわくていやな心持だったし、瞬間に物がその形を失うことにも心がひっかかった。わき目もふらず、ダツダツとかたづけに行く父の頸・背中は、声もかけられないかげろうのようなものが包んでいた。神経のぴりぴりしている成熟前の少女には、1 我慢まんまんんではなくてはならない仕事だった。薪は近処の製材所から買った屑木で、とんと柱とおもえる角材だったから、木性がよくてさほどの力もいらぬい筈はずだったけれども、私は怯おそえて、思おもいきつてふりおろすことができなかった。鉈をふりあげた姿勢がもう父の氣に入らなく、2 「ちよいと蹴く飛ばばされるとひっくりかえっちゃう」と云われ、うじうじとふりおろす後ろから、ツタツというかけ声を浴びた。縮みあがつた。まるで石みたような声だった。不意にうしろから石が飛んで来たのだ。父に向きあつて立ちあがつていた。3 見つめあい、私が負けて地面を見た。「もういちど、やってごらん。」語気はむしろ優しくかった。b 白状はくじやうするが、私はことばの中に一閃の愛情をさがしている余裕は無かった。緩めな、逃にげない激げきしさを c ムゴさむごさとつけとるや、立たつている脚あしから踏ふみしめる氣きが起おつた。反抗はんかうと捨てばちと、いずれにせよ正常な勇氣ではなかった。4 座ざに直ただつた心こころは、手一本足一本がなんだ、ぶつたぎれと思おもつた。

注 石みたような 「石みたいな」の意味

幸田文『鉈』による

問一 傍線部 a および c のカタカナの部分の漢字として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

- a ①井 ②貪 ③鈍 ④曇
- c ①巖 ②凄 ③酷 ④虐

解答番号 a ①② c ①②

問二 傍線部 A、B の漢字の読み方として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

- A ①めしうど ②しろうと ③なごうど ④くろうと
- B ①すそ ②えり ③たもと ④そで

解答番号 A ①③ B ①④

問三 傍線部 b 白状の白と同じ意味の漢字を含む熟語として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

- ①潔白 ②敬白 ③白昼 ④白壁

解答番号 ①⑤

問四 傍線部 1 「我慢しなくてはならない仕事」の内容として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

- ①長年の飲酒で肥満になり醜みにくくなった老体にむち打うちつて薪を割る父をみかねて、よその家では男がする薪割りをを成熟前の娘がしなければならぬこと
- ②熱中するあまり、鬼氣迫おにきるような迫力せりで仕事を進める父を、反抗期の娘のいらだつている神経を自ら沈静しんじやうさせて、できるだけ冷静に眺ながめていること
- ③酒にたるんだ目をつり上げて鉈を振り下ろす父の姿を虫むしが走るほど嫌悪きらしてながら、刃物で物が切られて形をなくしていくことを見つめること
- ④何かにとりつかれたように仕事をしてみせる父から、男性的な力強さを見せつけられて圧倒され、その場

解答番号 ①⑥



から立ち去りたい気持ちを我慢しながら見ていること

問五 傍線部2「ちよいと蹴飛ばされるとひっくりけえっちゃう」の内容説明として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 [17]

- ①初めての経験に嫌々ながらも果敢に立ち向かっている「私」に対する父の激励
- ②「私」が薪をきちんと据えられないで怯えていることに對する父の憤怒
- ③さほど力は要るまいと薪割りを侮っている「私」の内心を見透かした父の軽侮
- ④「私」の構えがてんでなっていないで腰も据わっていないことに對する父の非難

問六 傍線部3「見つめあい、私が負けて地面を見た」の場面説明として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 [18]

- ①突然石を投げつけられたことに抗議したが、父の剣幕に何も言えなかった
- ②急に後ろから気合いを入れられ、反抗しようとしたが父の迫力に気圧された
- ③父から叱責を受けて反抗したが、うじうじした自分の態度を素直に反省した
- ④一見優しい父の言葉の奥に怒気を感じて怒ったが、敢えて何も言わなかった

問七 傍線部4「座に直った心は、手一本足一本がなんだ、ぶったぎれと思った」の心理の説明として最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 [19]

- ①開き直った「私」は、反抗心から父の手や足を断ち切るようなつもりで薪に向かおうとしている
- ②姿勢を直した「私」は、やけになり、嫌悪の情から薪を父の手足に見立て、切り刻もうと思っている
- ③座り直した「私」は、度胸がついて、自分はけがをしてもいいという気持ちで薪を割ろうとしている
- ④居直った「私」は、自分や父がけがをしても知らないという獐犷な思いを心の底に抱き始めている

問八 この文章の中で、父が薪割りを通じて娘に伝えたかったことは何か。最も適当なものを次の①～④の中から答えよ。

解答番号 [20]

- ①仕事は何ごともし身の力をこめてしなければならぬという生きていくうえでの美学
- ②合理的に力を使うと何ごともし自然と美しい姿になるといふ真の意味での自然体の美
- ③女は力仕事をする場合でも常に美しくなければならぬという女の生き方の美しさ
- ④親が子どもの前で厳しい生き方をしてみせることによつてはじめて伝わる本当の愛情

三 次の各文の傍線部の意味として適当なものを後の①～④の中から答えよ。

解答番号 ア [21] イ [22] ウ [23] エ [24] オ [25]

- ア そんなに高を括つていると、逃げられるぞ
- ①偉そうにふんぞり返っている
  - ②落ち着いて動じない様子でいる
  - ③物事を安易に考えている
  - ④急いで何も手に着かない様子だと

イ それから田中君は闊達に笑った

- ①楽しくて仕方がないという様子で笑った
- ②心が広くのびのびした様子で笑った
- ③不安を隠し通すとする様子で笑った
- ④すがすがしくさっぱりした様子で笑った

ウ ふと思ひ出し、踵を返した

- ①足を止めた
- ②予定を変更した
- ③後戻りをした
- ④後ろを振り返った

エ 運動場はすでに、早くから出てきた連中のかまびすしい声で満ちていた

- ① 疲れきって不満げな声
- ③ 若々しくさわやかな声

- ② 子どもっぽく甲高い声
- ④ 騒々しくやかましい声

オ とにかく父は無然としていた

- ① 機嫌良く、うっとりしていた
- ③ 気がゆるんでぼんやりしていた

- ② 不愉快に思い、ものも言わなかった
- ④ 驚いて、慌てふためいていた

四

次のA～Eのことわざの意味として最も適当なものを後の①～⑨の中から答えよ。

解答番号

- A 26 B 27 C 28 D 29 E 30

- A 花より団子 B 棚からぼた餅 C 青菜に塩
- D ごまめの歯ざしり E 蔦に油揚げをさらわれ

① 価値あるものは容易に手に入らないこと

② 力のない者の憤慨

③ 方法が正しいと必ず成功すること

④ 何もせずに意外な幸運に恵まれる

⑤ 急に災難に遭うこと

⑥ 大事なものを横合いから不意に奪われること

⑦ すっかり元気をなくしている様子

⑧ 努力が無駄になること

⑨ 風流より実益、見かけより内容を尊ぶ

五

次のA～Eの対義語として最も適当なものを後の①～⑨の中から答えよ。

解答番号

- A 31 B 32 C 33 D 34 E 35

- A 幼稚 B 冷静 C 暴落 D 繁栄 E 早熟

- ① 年長 ② 興奮 ③ 上昇 ④ 閑散 ⑤ 晩成 ⑥ 衰微 ⑦ 老練 ⑧ 高騰 ⑨ 未熟

六

次のア～オの各文に該当する文学作品として最も適当なものを後の①～⑨の中から答えよ。

解答番号

- ア 36 イ 37 ウ 38 エ 39 オ 40

- ア 夏目漱石が雑誌「ホトトギス」に発表した最初の小説
- イ 夏目漱石の三部作の一つで、「三四郎」「それから」に続く小説
- ウ 森鷗外が熊本を舞台にして殉死という封建的モラルを描いた歴史小説
- エ 永井荷風が絶賛したという、谷崎潤一郎の記念碑的処女作と言われる小説
- オ 作者自身の内面的発展を主人公に託して描いた志賀直哉の長編小説

- ① 坊っちゃん ② 門 ③ 興津弥五右衛門の遺書 ④ 刺青 ⑤ 暗夜行路
- ⑥ 我が輩は猫である ⑦ 河童 ⑧ 阿部一族 ⑨ 細雪

七

次のa～jの□の中に入る適切な漢字を下から選んで四字熟語として完成させよ。

解答番号

- a 41 b 42 c 43 d 44 e 45 f 46 g 47 h 48 i 49 j 50

- a 一朝一□ (短い期間のこと)
- b 意味□長 (言動の意味が微妙で多様な解釈ができること)
- c 一□同仁 (すべてのものを同様に愛すること)
- d 異□同音 (みんなの意見が一致すること)
- e 急転直□ (事態が一気に変わって解決すること)
- f 夏炉冬□ (季節はずれで役に立たないこと)
- g 金科□条 (価値の高い大切な決まり、規則)
- h 厚□無恥 (厚かましく恥知らずなこと)
- i 周章□狼 (うろたえまごつくこと)
- j □刀直入 (前置きなしでずばり本論に入ること)

- ① 夕 ② 石 ③ 端 ④ 短
- ① 賢 ② 延 ③ 嘆 ④ 深
- ① 挙 ② 視 ③ 家 ④ 心
- ① 人 ② 音 ③ 口 ④ 者
- ① 角 ② 下 ③ 言 ④ 訴
- ① 雷 ② 扇 ③ 簾 ④ 汗
- ① 一 ② 銀 ③ 金 ④ 玉
- ① 丸 ② 願 ③ 顔 ④ 岩
- ① 狐 ② 虎 ③ 狼 ④ 鼠
- ① 一 ② 短 ③ 直 ④ 単